

2、ゆとりある充実した学校生活

ゆとりある充実した学校生活が展開されているか否かを次の観点から分析してみる必要がある。

(1) 学校生活全体における「ゆとりと充実」

○ 学校生活全体において、子どもにもらしい生活を主体的に展開し、真に充実したものとなっているか。

特に、削減された授業時数が学校の教育活動にゆとりをもたせているか。更に、学校の教育目標を達成するために生かされた時間として活用されているかを検討する必要がある。

なお、削減された時間は、次の順序により活用することが望ましい。

- ① 学校生活全体にゆとりをもたせる。
- ② 特別活動を充実する。
- ③ 創意を生かした教育活動の時間として活用する。
- (2) 一つのことを追求する「ゆとりと充実」
 - 一つの課題をゆとりをもって追求し、成功感、成就感のある学習が展開されているか。
- (3) 主体性確立のための「ゆとりと充実」
 - 学び方を学ぶ学習が展開され、記憶中心の教え込み教育から脱皮

しているか。

(4) 情緒安定のための「ゆとりと充実」

○ うるおいや人間性のある充実した生活ができる雰囲気醸成されているか。

3、「基礎・基本の徹底」と「個性と創造性の伸長」

(1) 基礎・基本の徹底

知・徳・体の調和ある人間育成のための基礎・基本は何かを明らかにし、教育内容を精選、重点化し、確実に身につけさせる方途をとる必要がある。なお、基礎・基本を次の点からとらえることが大切である。

- ① 学校教育を単なる知識の伝達の場とせず、思考力、判断力、創造力を養うことを知育の基本に据える。
- ② 基本的生活習慣のしつけ、自己抑制心に裏付けられた自主性の涵養など徳育の充実を図る。
- ③ 健康、安全の保持増進に必要な知識、技能の習得、発達段階に応じた正しい運動の実践方法や楽しみ方の習得などを基本にした体育の充実を図る。

(2) 個性と創造性の伸長

教師は、児童生徒一人一人のもつ能力や適性を尊重し、これを最大限に伸ばすとともに、創造力の育成を図ることが必要である。そのためには、

- 一人一人の能力・適性・興味・関心等を的確にとらえる。
- 個人差に応じた学習指導法を次の点から工夫する。
 - ・ 学習時間や学習量の調整
 - ・ 教材の開発と工夫
 - ・ 学習形態の組み合せ
 - ・ 学習課題・学習コースの選択
- ・ 教師の発言や板書など指導の工夫

夫

- ・ 指導に生かす評価の工夫
- 小学校低学年における合科的指導の改善・充実を図る。
- 中学校における選択教科の運営や指導方法の改善・充実を図る。

教育目標の具現

学校の教育目標は、児童生徒一人一人が、自分の目標としてとらえ、具体的に実践したときに初めて具現されたといえる。

したがって、学校の教育目標の具現ということとは、抽象的に表現されている目標を具体化し、その具体化した目標を達成するための方策や計画をち密に立て、それを児童生徒が行動として具現し、態度化にいたるまでの過程ととらえることができる。

1、教育目標の具体化

教育目標を具体化するということは、その意味内容を一層明確にすることである。これは、目標内容を具体的に分析し、達成が可能であり、評価し易い到達目標にすることもある。

教育目標の具体化の過程で最も大切なことは、教職員全員が主体的、意欲的に参画し、「何を、いつ、どんな方法で、誰が推進役で、どこまで達成させるか」を明らかにし、共通理解のもとに実践できるようにすることである。したがって、各学校では、前年度の教育目標を踏襲する場合であっても、次の過程を経ることが重要である。

ア 教育目標が、どのような背景のもとに設定され、法規、県や市町村の目標、児童生徒の実態、親や教師の願ひ等の関係がどのようになっていくかを確認し、目標設定の経過を明確にとらえる。

イ 教育目標の分析内容を点検し、整理し、構造化して、更に一層の具体化を図る。

ウ 前年度の反省事項、児童生徒の実態を考慮して、本年度の重点目標を設定する。

エ 達成度を評価可能な具体的目標とし、達成のための組織、計画、方法を明らかにする。

- (1) 学年・学級目標への具体化
- ① 学年目標